

【5月月例会】

地域と共に 第2弾！！

北杜市の取り組み

- 〈日時〉 5月12日(日) 13:30~16:30
- 〈場所〉 山梨県福祉プラザ 4F 第一会議室
- 〈参加費〉 一家族 1,000円 (当事者は無料)
- 〈講師〉 斉藤 洋氏 (北杜市障害福祉課 主査)
- 〈内容〉

40代~60代のひきこもり数が61万人以上であると発表された(内閣府発表) 社会を支える年代の人達が社会から消えていく、社会に希望は持てない今、本当に地域に根差したきめ細かな支援が求められる。今回は市町村の取り組みを紹介したい。北杜市は県内でいち早く地域でひきこもり支援を始めた市である。ひきこもりサポーター養成事業にも積極的にサポーター登録者数、41名にのぼる。

《当事者スペース》

- 〈日時〉 5月12日(日) 13:30~16:30
- 〈場所〉 山梨県福祉プラザ パソコン室

【5月のミニグループトーク】

- 〈日時〉 5月26日(日) 10:00~12:00
- 山梨県福祉プラザ 4F
- 小人数でゆったりとお互い語り合う場です。
- ※参加費は500円です。(当事者は無料)

農園でギャザリングしよう

- ◆市民農園・1区画 55㎡(約17坪)1年間 6,000円
- 場所: 甲府市七沢町
- 友達、家族などで一緒に畑で過ごしませんか!
- ◆お問い合わせ=055-243-0261(相良農園)

すみれ会

- ◇月例会 5月11日(土)13:30~15:30
- 場所: 南アルプス市市民活動センター
- ◇お問い合わせ=090-5416-8748(清水)
- *すみれ会は桃の会とは別に地域で活動している家族会です



桃の会今後の予定 2019年

- *月例会 6月16日(日)福祉プラザ 4F 会議室
- *ミニグループトーク 6月22日(土)福祉プラザ第一会議室



お問い合わせ

TEL/FAX
0266-55-5411
090-6190-8677
桃の会事務局

山梨県 桃の会

HP: <http://momonokai.org/> E-mail: meri-sannokuni@softbank.ne.jp

会報第56号

過剰期待

干渉

人間の社会をみると、現代はしばしば人間である子供をペットのように育ててしまっている
それは「さあ、適当な年齢になったから
野生の猿の群れの中で生き生きと行動してらっしゃい」と
と解き放っているようなものだ

(霊長類研究所 河合雅雄)

出会う、つながる、わかちあう

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 山梨支部

<ピア Voice>

「子供の為」「子供の為」と思っているのは、本当に「子供の為」なのだろうか？私自身を振り返って子供の為にと必死になっている。実は、「自分が納得したい」「自分が安心したい」そういう気持ちがいつも心の奥に根差していたように思うからである。子供が将来困らないようにという考え方や行動は、一見子供に対する愛情のように思えるがそれは本当の愛情ではないと今、はっきりそう思える。子供の成長を願わない親はおそらくいない。

そう願いながら私達は「今のあなたでは満足しない」というメッセージを送り続け、成長を阻んでいたのかも知れない。過度な子供への依存と過干渉、過剰期待、私達親が落ち入りやすい罠かも知れない。

(sino)

年会費納入の御願い

4月には新年度のスタートをきりました。皆様のご理解とご協力によって支えられて、桃の会は6年目を迎えます。当会は皆様の年会費とボランティア有志の方々のご協力で運営されております。不登校、引きこもりは増加の一途で、引きこもりにおきましては20年、30年と長期化傾向にあり、家族にとって家族会は、支え合う場として必要不可欠であると思います。活動を継続していくためには是非とも皆様のご理解ご協力を引き続き宜しくお願い致します。

支払い方向は同封の振り込み用紙又は、月例会時にも受付けております
一家族 3000円 当事者 無料

再開しました！！当事者スペース

初参加者や3年ぶりに参加された女性もおりました。

アニメの話大盛り上がりでした。

参加者8名（女性2名男性6名）見学者1名

福祉プラザ1F パソコン室

(yonenaga)

当会は、
みんなで作り上げていく会です！
ボランティア募集！

<家族会の役割>

家族会6年目を迎えて

家族会に参加される方は、現状を何とかしたい一心で参加される。悲痛な思いが伝わってくる。しかし会としてその思いに、充分応えられないジレンマをいつも感じている。

10年、20年社会と繋がりのない時間の経過は、簡単に方向転換出来るものではない。引きこもる背景にあるものや家庭環境等一人一人異なりそれに合わせた対応が必要になるからだ。親の高齢化も事態を更に難しくする事が多い。魔法をかけたように現実が切り替わればどれ程良いだろうか。

桃の会に魔法を求めてくる人は意外に多い。

魔法が効かないと わかると「桃の会は役に立たない会」になってしまう。とても淋しく残念な事であるのだが、桃の会は魔法をかけられない。家族会は、現実のありのままの自分と向き合い自分に気付く為の会である。そして子供との関係を振り返りこれからどのように向き合うべきかを試行錯誤する場である。あらゆる専門家の話を聞く事も一助となるが、それ以上に、「自分自身を知る」「向き合おうとする覚悟」が必要となる。本当の親になる覚悟である。

その為には今迄より更に苦しい思いを乗り越えなくてはならないかも知れない。しかし子供の事を考えるならばそこから逃げる訳にはいかないのではないかと。状況を大きく転換しなくてはならない時は、専門家や支援者と連携しその力を借りる事も大事な事だ。

家族会は、同じ立場で思いを共有し共感し前に進む為の知恵を出し合う仲間としての「繋がり」で、今人と人との関係が希薄になった社会に必要とされる集まりだと思う。孤立は絶対避けなければならないから。

苦しい！悲しい！思いを一番共感出来るのは、専門機関ではなく家族同士である事は間違いない。「傷のなめあい」ではなく「繋がる」事により更に太い「絆」を生み人間のレジリエンス(底ぢから)が、引き出されていくような気がしている。

(篠原)

月例会

山田孝明氏による「全員の質問に答える」は一人一人にととても的確で、長年現場で培った「感」はすばらしかった。(k)

